

# 2023年度 海外研修・研究等助成事業 研修報告

## 英国刺繍の歴史を訪ねて ～英国伝統刺繍～

静岡県立遠江総合高等学校 古橋 篤子

### Royal School of Needlework Summer Seminar への参加

英国王立刺繍学校(1872年設立)では、毎年夏にロンドン南西部にあるハンプトンコート宮殿で短期講習会を開催している。取り組む題材ごとにコースが分かれており、今回は18世紀に使用されていたレターケースをアレンジした作品づくりに取り組みながら、英国刺繍の技法の一つであるゴールドワーク(金糸を用いる技法)を学ぶ4日間のコースに参加した。世界屈指の講師の下、国際色豊かなクラスメイト11名と共に、様々なステッチや技法などを幅広く学ぶことができた。心を込めて一針一針向き合う刺繍を通じて、手仕事ならではの美しさや尊さを改めて実感した。

#### 〈1日目〉

- ・刺繍枠に布を固定する方法
- ・縫い始めと縫い終わりの糸の処理方法
- ・縫い方の基本と初心者が注意すべき糸の扱い方
- ・刺繍を刺す順序
- ・Outline Stitch ・Pistil Stitch ・Satin Stitch
- ・French Knot Stitch

#### 〈2日目〉

- ・金糸の扱い方 ・ワイヤーを使う技法
- ・Slanted Stitch ・Hidden Stitch ・Stamp Stitch

#### 〈3日目〉

- ・銀糸の扱い方 ・スパンコールの付け方
- ・Coral Stitch ・Stem Stitch
- ・バッキンガム宮殿にてチャールズ国王戴冠式の特別展(王立刺繍スタジオが手掛けた衣装の数々)を見学

#### 〈4日目〉

- ・陰影のつけ方 ・Double Chain Stitch
- ・Buttonhole Stitch ・Split Stitch
- ・Double Looped Edging ・王立刺繍スタジオ資料室見学

### 博物館や市場での刺繍作品見学

主に16世紀から19世紀にかけての作品を見学した。まるで絵画のような刺繍や8年もの月日をかけて完成させた大作など、これまで目にしたことのない歴史的にも価値のある見事な展示物ばかりだった。英文の説明書きを読むのに苦戦したが、いくつかの博物館を巡る中で個々の情報が繋がり合っていくのを何度も感じた。複数の博物館に赴いたからこそその大変貴重な体験であった。

#### 〈訪問先〉

- ・William Morris Gallery ・Geffrye Museum
- ・Victoria & Albert Museum
- ・St. Paul's Cathedral
- ・Westminster Abbey ・British Museum
- ・Fashion & Textile Museum
- ・HAND & LOCK (王室御用達刺繍会社)
- ・Portobello Market ・Walthamstow Market
- ・Camden Market ・Borough Market

### 研修を終えて

図案や刺繍技術といった刺繍の表面的な部分のみならず、デザイン画の意味や技法の生まれた歴史的背景、先人の暮らしぶりなど、目には映らない刺繍の世界にも触れたことで、英国刺繍の奥深さを体感し、多角的な視点で刺繍を見つめることができた。

また、LGBTQを象徴するレインボーフラッグを模した横断歩道やインクルーシブ表示のあるトイレなどを街中で見かけ、日本より多様性が尊重されていると感じた。家庭科は生活全般に関わる教科であり、授業でも積極的に紹介していきたい。

研修を通じて多くを学び、大変充実した時間だった。



製作中の作品



18世紀に使用されていたレターケース(実物)